



文化

大垣らしさあふれる俳句事業の取り組み

大垣市は、松尾芭蕉が奥の細道の旅を終えた地であり、生涯にわたり幾度も訪れた安息の地です。

こうしたことから、本市では俳句文化の振興に取り組んでおり、学校と連携した俳句の活動や、奥の細道むすびの地記念館を拠点とした、様々な市民参加型の俳句事業を実施しています。

年間を通してだれもが俳句づくりに親しんでいただける環境、作品づくりの機会を提供し、俳句

文化の向上を図る目的で、常時投句の受け付けをしている十六万市投句事業も実施しています。

今後とも、奥の細道むすびの地記念館を拠点として、初心者から熟練者まで、様々な俳句事業の充実を図っていきます。

こども俳句教室

こども俳句教室は、市内の小中学生を対象に俳句づくりの基礎を学び、俳句に親しみ、その楽しさを知ってもらうことを目的としています。奥の細道むすびの地記念館周辺で遊んだり、大垣公園や大垣城などを見学したりしながら俳句をつくり、発表して、みんなで句の良さを認め合います。

芭蕉生誕の地である伊賀市の子どもたちとの俳句交流も行っています。



(平成26年度 奥の細道むすびの地記念館周辺散策)

さんせき

三尺俳句教室(初心者俳句教室)

三尺俳句教室は、芭蕉の「俳諧は三尺の童にさせよ」から由来しており、子どものような素直な気持ちで俳句をつくらうという意味から名付けた初心者向け俳句教室です。

俳句のはじまりから分かりやすく学び、俳句づくりやみんなで句を交流する句会などを行っています。そうすることで、多くの人に俳句の魅力を知ってもらい、俳句愛好者を育てることを目的としています。

三尺俳句教室は、奥の細道むすびの地俳句協会の先生を、俳句教室を行う会場に派遣する出張俳句教室と、奥の細道むすびの地記念館を会場とした年間4回の俳句教室を予定しています。



奥の細道むすびの地記念館

第14回企画展 梁川星巖 ～詩作の旅、交遊、深まる心～

幕末の激動期に勤王の志士を導いた漢詩人・星巖の生涯やその漢詩の特徴を、(一)漢詩人としての姿、(二)妻・紅蘭を伴った五年にわたる西国の旅(鴛鴦の旅)、(三)志士としての姿、という三つの側面から辿ります。

日 時／平成27年7月18日(土)～8月30日(日)

開館時間／9:00～17:00

場 所／奥の細道むすびの地記念館1階企画展示室

(梁川星巖肖像画)



大垣市教育委員会

〒503-0888 大垣市丸の内2丁目55
TEL(0584)47-8022(直通) FAX(0584)82-6385
Email: kyouikusyomuka@city.ogaki.lg.jp

みんなで築こう人権の世紀
～考えよう相手の気持ち
育てよう思いやりの心～

ふれあい 学びあい 深めあう 文教のまち大垣

大垣市教育委員会だより

はぐくみ

vol.1

発行
平成27年
6月

小学校 22校 8,788人
中学校 10校 4,480人
幼保園 6園 1,078人
保育園 26園 3,329人
幼稚園 14園 815人
(5月1日 現在)

教育委員会だよりの発行にあたって

大垣は文教都市といわれてきました。それは、江戸時代に大垣藩公が学問所を開設し、文教の振興を図ったことや、明治時代に大垣出身の博士が輩出したことなどによるといわれています。しかし、こうした一部の人たちだけでなく、明治時代の始めに市内の各地で地域の人たちの寄付によって学校が設立されていることなどから、教育を大切にしようとする気風が脈々と受け継がれていることによるものと考えています。

大垣市教育委員会では、文教都市「大垣」をさらに発展させていきたいと願っていますが、様々な事業に取り組むだけでなく、市民の皆様にご理解やご支援をいただけるようにしていくことも大切であると考えています。そこで、大垣市の教育について情報発信するための広報誌を発行することとしました。市民の皆様には、本広報誌を読んでいただくとともに、ご意見やご感想をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

教育長 山本 譲

教育委員会とは

- ・教育委員会は、都道府県や市町村などの地方公共団体に設置される合議制(大垣市の場合は5人の委員による)の執行機関です。
- ・教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当しています。
- ・市長から独立した行政委員会としての位置付けとなり、月1回の定例会のほか、臨時会を開催しています。



※教育委員会制度の改正により、今後は教育長と委員長が一本化されます。

教育委員



河合 保孝 委員長



堀 哲也 委員



山川 隆司 委員



平野 晶子 委員



山本 譲 委員
(教育長)



会議

大垣市総合教育会議を開催しました!

教育委員会制度の改正により、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育課題を共有するため、第1回の総合教育会議が4月28日に開催されました。

会議では、「大垣のスポーツ選手の強化、輩出に取り組んでほしい」、「大垣の先賢を学ぶ機会を大切にしてほしい」、「少子化だからこそ教育の質が求められる」など、市長と教育委員の間で活発な意見交換がなされました。



学校

土曜授業を活用した「ふるさと大垣科」が始まりました!

市は、今年度から市内全小中学校において、大垣の自然や歴史、文化、産業、俳句文学等について学び、ふるさと大垣に愛着をもち、大垣のすばらしさを語れる子どもたちが育つよう、土曜授業を活用した「ふるさと大垣科」をスタートしました。

最初の土曜授業は、5月16日に実施され、「ふるさと大垣科」の初めての授業が行われました。学級担任は、配付したテキストをもとに、1年間で学習する内容の見通しを子どもたちがもてるように話をしました。子どもたちからは、「あっ、ここに僕たちの学校が出てる。」「この人の名前、聞いたことある。」「登下校で毎日近くを通っている会社は、こういうものを作っているんだ。」などの声上がり、自分が住んでいる地域の話題を中心として、これから学習する内容に興味をもつ子どもが多くいました。



学習を進める中で、「大垣に残っている豊かな自然を守る活動に、私も協力していきたいな。」「大垣の企業がさらに発展するように、僕もアイデアを出していきたいな。」「大垣が、人にも自然にもやさしいまちになるように、自分ができるところから取り組んでいきたいな。」など、大垣に誇りや愛着をもつだけでなく、自分から行動することができる子どもたちが育つことを願っています。

今後は、豊富な知識と経験をもつ幅広い市民の協力を得ながら、地域と連携した体験活動を数多く設定し、土曜日に実施する利点を生かした教育活動を推進していきます。



社会教育

がんばっています!学校支援ボランティア活動

市では地域の学校を地域で支援する取組のひとつとして学校支援ボランティア活動を推進しています。地域の学校の子どものためにできる人が、できることを、できる時に活動する取組です。学校支援ボランティア活動を進めていくために、窓口として、学校支援コーディネーターを各学校に1人ずつ位置づけています。



環境整備活動



読み聞かせ

内容は、校地内外の草取りや落ち葉ひろいなどの環境整備活動、遠足や校外学習のときの安全見守り活動、読み聞かせや実技授業の支援などの学習支援活動など多岐にわたっています。この活動を通して、学校と地域がさらに連携できるようにしていきたいです。



スポーツ

ジャパンカップ

国際女子ソフトボール大会にて学校観戦事業を実施!(対象は市内小学校5・6年生)

市は、今年8月に国際女子ソフトボール大会“ジャパンカップ”を開催します。

教育の目的は、知育、徳育、体育にあるといわれています。体育の目的は人格形成にあります。体を鍛えることを通して、貫徹力、忍耐力、責任感、規律、勇気を身につけさせることにその目的はあります。体育は教育の一部であり、スポーツは体育が教育で果たす機能を実現するための手段となります。

市は、世界トップレベルの4か国を迎えた国際大会を間近で観戦することで、チームワークや華麗な技術、闘志あふれるプレーを体感できる絶好の機会と捉え、子どもたちに「夢と感動」を与え、「みる・応援する」ことで、スポーツへの関心とキッカケづくりになることを期待しています。

スポーツの醍醐味は、過程にあり、過程にこそドラマがある。

主な概要 参加国/日本、アメリカ、オーストラリア、チャイニーズ・タイペイ
期 日/平成27年8月7日(金)~9日(日)
会 場/大垣市北公園野球場 ※詳しい大会概要は市ホームページをご覧ください。



※ジャパンカップは、(公財)日本ソフトボール協会、毎日新聞社が主催する公式大会です。写真は昨年の大垣国際女子ソフトボール大会の様子です。